

高松市の子どもの交通事故の現状と対策について



高松市交通安全シンボルキャラクター

まもリーぶちゃん

市民政策局 くらし安全安心課



本市の交通事故発生状況

市内の交通事故発生状況

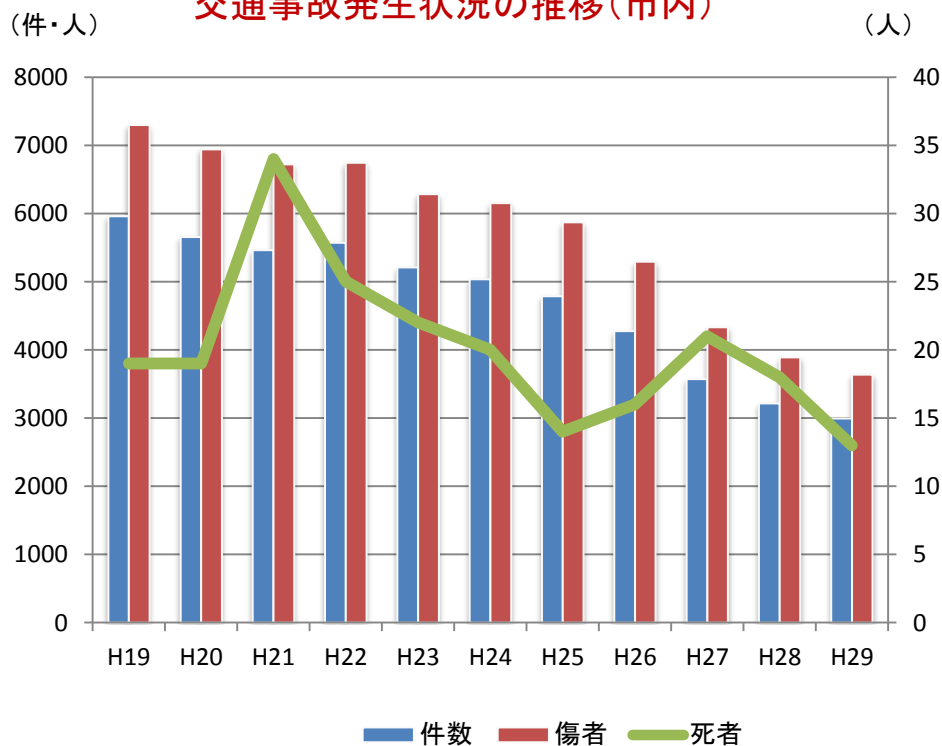
区 分	平成29年	平成28年	比 較
件 数	2,996件	3,217件	▲221件
死 者 数	13人	18人	▲ 5人
負傷者数	3,639人	3,890人	▲251人



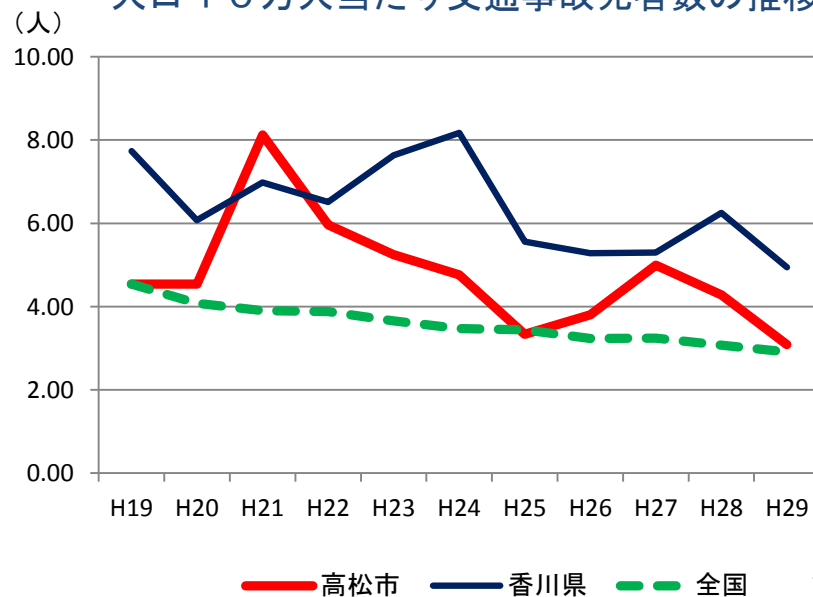
人口10万人当たり死者数の状況

区 分	平成29年	平成28年	比 較
高松市	3.09人	4.28人	▲1.19人
香川県	4.94人	6.25人	▲1.31人
全 国	2.91人	3.07人	▲0.16人

交通事故発生状況の推移(市内)



人口10万人当たり交通事故死者数の推移



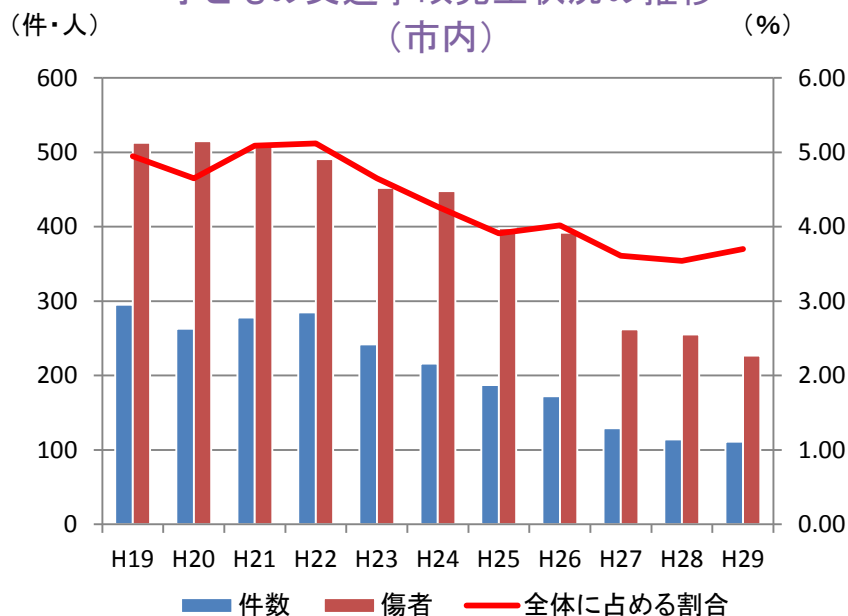


本市の子どもの交通事故発生状況

市内の子ども(出生～中学生)の交通事故発生状況

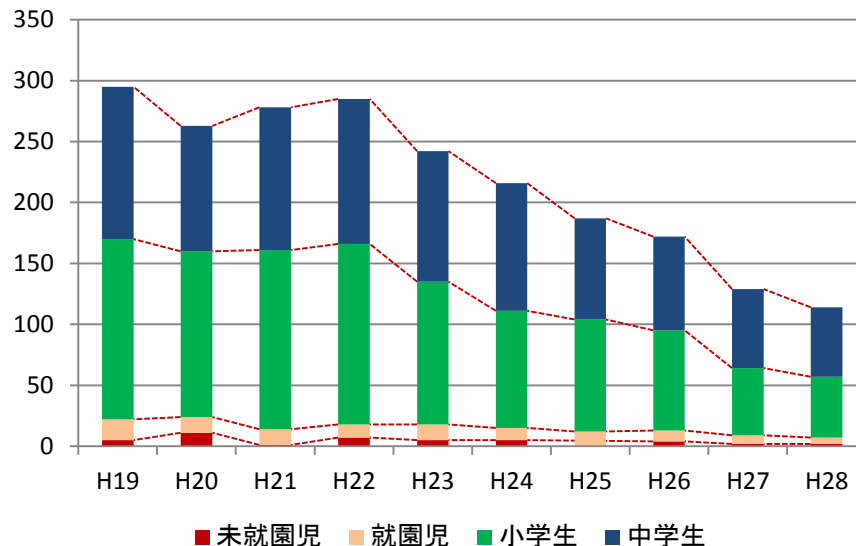
区 分	平成29年	平成28年	比 較
件 数	111件	115件	▲ 4件
死 者 数	0人	0人	—
負傷者数	227人	255人	▲ 28人

子どもの交通事故発生状況の推移 (市内)

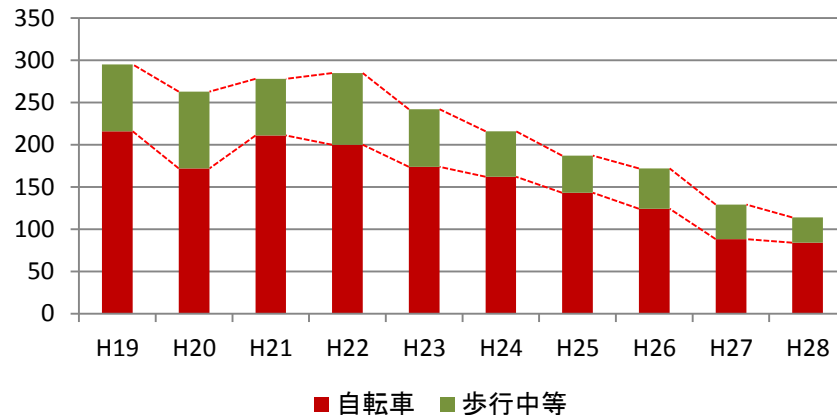


※ 死者は平成16年以降発生していない

就学別の交通事故件数の推移(市内)



状態別の交通事故件数の推移(市内)



※ H29は県警察から公表されていないので記載していない



子どもの交通事故抑止対策 ～ ハード面の対策① ～

高松市通学路交通安全プログラムに基づく通学路の危険箇所の点検と改善

○ 高松市通学路交通安全プログラムの概要

推進体制		(国) 国土交通省香川河川国道事務所 (県) 高松土木事務所、高松北・南・東・西警察署 (市) くらし安全安心課、保健体育課、道路管理課
取組方針	基本方針	通学路の安全を確保するため、合同点検を計画的に実施するとともに、対策実施後に効果の確認等を行い、対策内容の改善・充実を図る
	合同点検	①定期合同点検 ... 市立の小学校を3グループに分け、計画的に実施 ②臨時合同点検 ... 道路状況の変化や通学路の変更等、臨時的に対応を必要とする場所が発生した場合、必要に応じて実施 ③緊急合同点検 ... 市内で児童が関係する重大事故等が発生した場合、必要に応じて発生小学校区において実施
	合同点検の体制	小学校ごとに、推進体制のほか、教職員、保護者、自治会等が参加し実施
	対策の検討・決定	合同点検の結果から明らかになった対策必要箇所について、歩道整備や防護柵設置のようなハード対策や交通規制、交通安全教育のようなソフト対策など、対策必要箇所に応じて具体的な実施メニューを検討・決定する
	対策の実施	対策の実施に当たっては、対策が円滑に進むよう関係者間で連携を図る
	対策の改善・充実	対策実施後も、効果を確認し、対策内容の改善・充実を図る

○ 対策事例



これまでに実施した小学校区

- 27年度 (定期)新番丁、木太北部、三溪、大野、国分寺北部
(臨時)多肥、川岡、川添
- 28年度 (定期)下笠居、木太、林、中央、東植田
(臨時)香西、多肥、鶴尾、前田、川島、植田、国分寺南部
(緊急)高松第一
- 29年度 (定期)高松第一、香西、鶴尾、塩江
(臨時)花園、川東
(緊急)亀阜

※ 重大事故の発生により、28年度に屋島中学校区で緊急の現場診断を実施した



子どもの交通事故抑止対策 ～ ハード面の対策② ～

「ゾーン30」の整備

○ ゾーン30とは …

- ・住宅地域や学校周辺などの生活道路の区域を「ゾーン」として設定
- ↓
- ・「ゾーン」内の最高速度を30km/hに規制
 - ・道路管理者と連携して、歩行者や自転車の安全を優先した各種事故防止対策を実施

○ どのようなことをするのか …

- ・「ゾーン」の出入口に最高速度を30km/hの標識や路面標示を設置
- ・路側帯の設置や交差点の明確化 → ドライバーに対し安全運転への注意を促し、歩行者を保護
- ・車道を狭くする路面標示等 → 車両の通行量を抑制

○ これまでに設定した地区

中野町地区、伏石町地区、新田町地区、栗林地区、香川町地区、
国分寺町地区(2地区)、木太町地区(2地区)、庵治町地区、
(今後の予定) … 番町地区、花園地区



「ゾーン30」の標示例



「ゾーン30」の設定エリアの例



子どもの交通事故抑止対策 ～ ソフト面の対策 ～

子どもの発達段階に応じた交通安全教室の実施

年 代	目 的	講義内容	実施状況
未就学児	基本的な交通ルールを遵守し、交通マナーを実践する態度を習得させるとともに、日常生活において、安全に道路を通行するために必要な基本的な技能及び知識を習得させる	・模擬信号機、横断歩道等を使用した基本的な歩行練習 ・紙芝居等を使った交通ルールの指導	
小学生	歩行者及び自転車の利用者として必要な技能と知識を習得させるとともに、道路及び交通の状況に応じて、安全に道路を通行するために、道路交通における危険を予測し、これを回避して安全に通行する意識及び能力を高める	【1年生】 ・基本的な交通ルールを記載したパンフレットの配布 ・交差点や踏切、路側帯等、様々な交通環境下での危険予測や、正しい通行方法の実践 【4年生】 ・自転車の正しい乗り方等を記載した小冊子の配布 ・交通ルールやマナーの遵守、点検整備、損害賠償保険への加入等の座学 ・自転車に乗車してコースを走行する実技 ・自転車運転免許証の交付	
中学生	日常生活における交通安全に必要な事柄、特に、自転車で安全に道路を通行するために、必要な技能と知識を十分に習得させる	・「香川県交通安全教育推進隊」による、自転車の安全な乗り方の講義や、自転車シュミレーター等を使用した実践的な指導	

交通安全子ども自転車大会への参加

（一財）香川県交通安全協会が実施している「交通安全子ども自転車大会」に、市内の小学校から2校程度を選抜し、5・6年生を中心に参加（29年度参加校 … 弦打小、多肥小）



地域における登下校時の立哨活動

各地域において、PTAや地域団体が中心となり、登下校時の立哨活動を実施



本市では、交通安全指導者研修会の開催や横断旗の配布、交通指導員による立哨指導を実施し、活動を支援

交通安全指導者研修会



横断旗



交通指導員による立哨指導



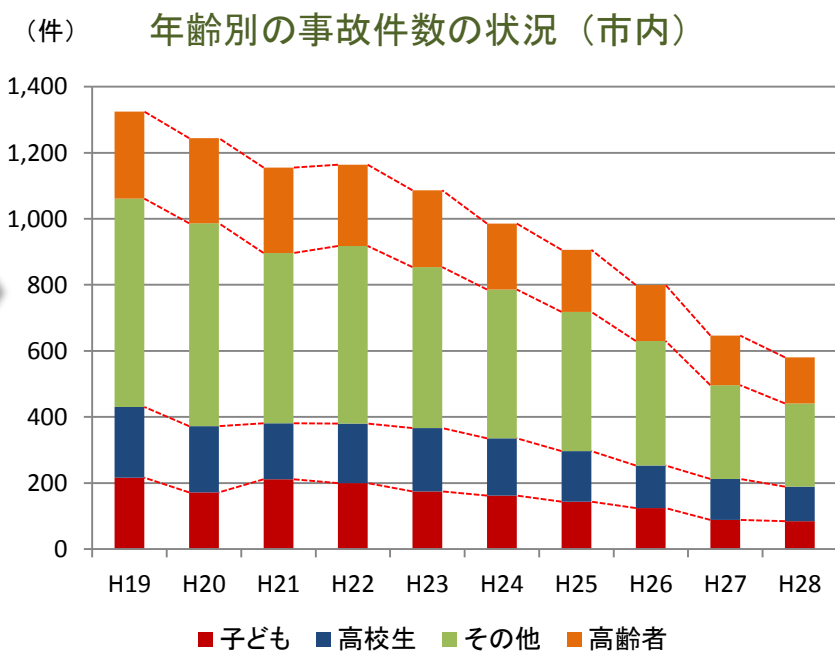
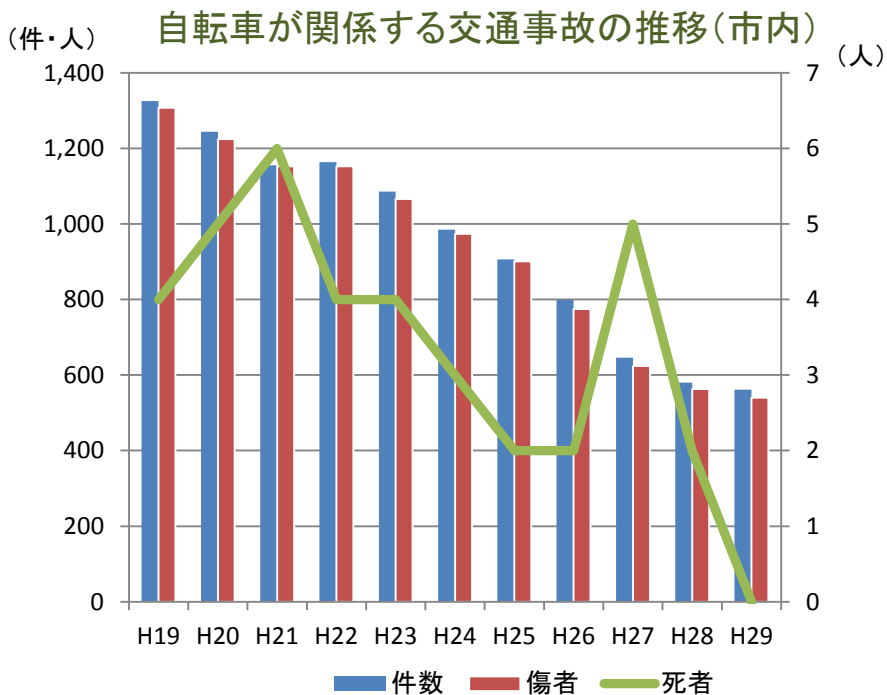
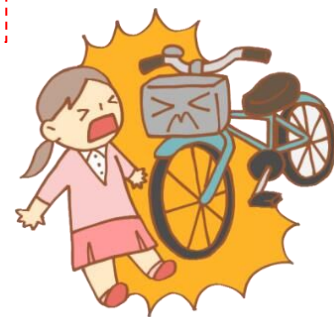


市内の自転車に関する交通事故発生状況

市内の自転車に関する交通事故発生状況

区 分	平成29年	平成28年	比 較
件 数	561件	580件	▲19件
死 者 数	0人	2人	▲ 2人
負傷者数	540人	563人	▲23人

このうち
子どもは 72件(全体の12.8%)



※ H29は県警察から公表されていないので記載していない 7



「香川県自転車安全利用に関する条例」について

(平成30年4月1日施行)



条例の基本理念

自転車の安全利用は、自転車利用者、歩行者、自動車などの運転者が互いに立場を尊重しながら道路を共有するという認識の下に、県や市町、県民、学校、事業者、関係団体が相互に連携、協力しながら、促進する必要がある。

1 交通ルール遵守とマナーの向上

歩道での危険な走行や、無灯火、スマートフォンを操作しながらの運転などの規制について重点的に、より明確に定められた。

2 自転車交通安全教育

自転車で安全に通行するために、子どものうちから自転車の交通安全教育を受け、大人になっても忘れないよう、継続して交通安全教育に取り組む社会を目指すとし、県や学校、保護者等が実施する教育の内容を定めている。

3 自転車の点検整備

関係法令に規定する基準等に適合するよう自転車の点検整備を行うことが義務化された。

4 ヘルメットの着用

県及び関係団体は、乗車用ヘルメットの適正な方法による着用促進を図るため、情報提供その他の必要な措置を講じることとされた。

5 自転車損害保険等の加入

自転車利用者(子どもの場合はその保護者)等に対し、自転車損害賠償保険に加入するよう努力義務が課された。



今後の子どもの交通事故抑止対策について

子どもの交通事故は年々減少傾向にあるが …

平成28年には、登下校中の児童、生徒が重傷を負う事故が相次いで発生

4月 屋島中学校 ⇒ 登校中(自転車)に乗用車と衝突し重傷
5月 香西小学校 ⇒ 登校中(歩行)に乗用車と衝突し重傷
10月 高松第一小学校 ⇒ 下校中(歩行)に乗用車と衝突し重傷

今年に入り、全国的に子どもや高校生が巻き込まれる重大事故が多発

- 1月9日 … 群馬県前橋市で登校中の高校生2人が車にはねられ、1人が死亡
- 1月30日 … 岡山県赤磐市で下校中の小学生6人の列に車が突っ込み、1人が死亡
- 2月1日 … 大阪市生野区でショベルカーが歩道に突っ込み、下校中の聴覚支援学校小学部の児童3人のうち1人が死亡

教育委員会との連携を密にした、これまでの対策の更なる充実

高松市交通安全母の会等の関係団体と連携した、地域や家庭内における交通安全意識の高揚を図る取組



交通安全教室の充実



交通安全施設の充実



子どもの交通事故抑止